

令和7年度 南幌町介護保険事業計画等策定委員会 議事概要録

日 時 令和7年10月28日(火)

16時より17時10分

場 所 1階あいくるホール

◎出席委員 竹内・細目・山内・本間・林・三歩・新内・藤井・丸山 9名
◎欠席委員 上原
◎事務局 課長・参事・保健福祉課高齢者包括係職員・社協職員

1 開 会

事務局

それではただいまより、令和7年度南幌町介護保険事業計画等策定委員会を開催させていただきます。開会に先立ちまして、竹内委員長よりご挨拶をいただきます。

2 委員長挨拶

委員長

今年は本当に夏が暑くて、気候や世の中の変化を感じるが多かったと思われます。時代はこうやって変わってきたのだなということを改めて思っております。

介護保険制度もすでに25年目4半世紀過ぎております。新たないろいろな問題もあると思われますが、ニーズですとか時代の変化を知るためには、今回の議題でもありますニーズ調査ですとか、各事業の取り組みで今後どうしたらいいのか、町民の方々が高齢になられても南幌町で安心して将来が過ごせるような計画を、私達策定していきたいと思っておりますので、遠慮なく皆さんご意見をいただきたいと思います。難しいこととかわからないことに関しても、遠慮なくそれって何ってというようなことがあれば言っていたいただいて知らないものを知らないままで終わらせないというようなことでお願いしたいと思っております。どうぞ最後までよろしくお願いいたします。

事務局

それでは、これからの議事進行につきましては、南幌町介護保険事業計画等策定委員会設置運営要綱第8条の規定に基づき、委員長が議長となって進めていただきます。竹内委員長よろしくお願いいたします。

3 協議事項

委員長

それでは、協議事項、(1)「南幌町高齢者人口等の状況について」事務局より説明をお願いします。

事務局

資料の 1 ページをご覧ください。

1 高齢者人口・高齢化率の推移についてです。こちらの表は、第 7 期、第 8 期、第 9 期計画の 4 月 1 日現在の人口・高齢化率の推移となります。

総人口については、平成 31 年から減少傾向がみられておりましたが、令和 5 年から人口が増加に転じ、令和 6 年 7,838 人、令和 7 年 8,036 人と年間で 200 人を近い人口の増加がみられ、第 9 期の計画値との比較では、令和 7 年 4 月 1 日現在では 338 人の増となっております。

これに対して、下段の 65 歳以上の高齢者数は、年によってばらつきは見られますが、令和 6 年までは年間平均で 40 人程度の増加がみられておりましたが、令和 7 年については増減なしとなっております。高齢者数は計画に対しては 35 人の増となっておりますが、子育て世代の人口増加に伴い、令和 7 年の高齢化率は前年度に対して 0.85% の減となっております。

つづきまして 2 ページの、2 要介護認定者・認定率の推移について説明させていただきます。第 7 期から第 9 期にかけて、認定者数は増加しており、これに伴い認定率も上昇しております。なお介護度による人数については、記載のとおりとなります。

計画値との比較では、第 8 期については計画値と実績が近い形で推移しておりますが、第 9 期の令和 7 年については、計画に対し認定者数が約 30 名の増となっております。

つづきまして 3 ページ、3 介護サービス利用者の居宅・地域密着型・施設サービスの利用者の推移について説明をさせていただきます。この表は、介護サービスを居宅サービス、地域密着型サービス、施設サービスと、大きくくくりで分けたサービス利用者数の状況を記載しております。居宅サービスについては、第 7 期から、年間平均で 6 名ほど増加となっており、地域密着型サービスについては、ほぼ横ばいとなっております。施設サービスについては、令和 6 年、令和 7 年と約 10 名の増加となっております。

介護認定者のうち実際にサービスを利用されている方の割合は、令和 7 年 4 月で、83.02% となっております。

委員長

ただいま、事務局より説明がありました。ご質問ありませんか。

委員長

ひとつ確認なのですが、高齢化率については、近隣町村と比較して低い方という認識でよろしいですね。

事務局

若い世代の転入が増えていますので、高齢化率は近隣町よりも低い水準となっております。

委員長

次に（２）「第９期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の進捗状況について」、初めに①各事業の取り組み状況について事務局より説明をお願いします。

事務局

資料４ページからの令和６年度 主な事業の実績について、抜粋して説明させていただきます。

実績値の中で「進捗率」の欄にパーセンテージが記載されている事業については、第９期計画において目標設定を行っている事業となります。

また「前年比」については、令和５年度の実績値と比較している事業です。こちらは第９期介護保険事業計画において目標値を設定していない事業であったり、高齢者福祉計画の事業を参考までに記載させていただいている事業となっています。

それでは資料４ページ 目標１「いきいき暮らす地域づくり」（１）「生きがい活動の充実と生涯学習活動の推進」についてです。

「地域づくりサロン事業」です。令和６年度は新たな新規立ち上げはなかったため、引き続き開催場所は７カ所となっています。開催回数１４１回、延べ参加者数１，８６９人となっています。

「高齢者いきいき健康マージャン」です。開催回数４７回、延べ参加者数１，４８４人となっています。

（２）社会参加の推進については、「介護支援ボランティアポイント事業」となっています。サロン事業のボランティア、健康マージャンのボランティアなど、様々なボランティア活動へ参加していただいている方の登録が９３人となっています。

つづきまして、資料５ページ 目標２「健康で暮らす地域づくり」（１）「介護予防の推進」です。

「男の料理教室」です。開催回数は６回、延べ７１人の参加者数となっています。

「快足シャキッと倶楽部」です。開催回数１１２回、延べ参加者数２，４０８人と参加者数も多くなっています。コロナ流行以降、人数を分ける観点から、あいくる開催は火曜日と金曜日どちらかのみとしていましたが、週２回来たいという参加者からの強い希望があり、令和６年度は週２回来られるよう調整し開催したため、延べ参加人数が増えています。

資料７ページ （２）「生活習慣病予防の推進」です。

「家庭訪問」です。日々の相談や必要な支援へのつなぎ、地域高齢者の把握のため家庭訪問を行っています。令和６年度は新規５２７件、継続件数３８３件となっています。

目標３「安心して暮らす環境づくり」（１）生活支援サービスの充実です。

「緊急通報装置設置事業」です。令和６年度は新規設置件数３件、年度末での全体の設置件数は７４件となっています。

資料８ページ「あんしんキット配布事業」です。緊急時に、迅速な救急対応につなげることができ、大切なツールとなっています。令和６年度 設置人数１，１１４名、うち７５歳以上設置数７８８人となっています。民生委員や介護支援専門員等の協力を得

ながら、新規配布をおこなうとともに、すでに設置されている情報が最新のものになるよう、情報更新もおこなっているところです。

ここで訂正があります。参考として新規配布数、新規控え回収数を掲載しているところですが、年度が令和3、4、5となっているところ、令和4年、令和5年、令和6年に訂正をお願いいたします。令和6年度新規配布数は34人となっています。

「除雪サービス事業」です。令和6年度は、公道除雪34件、間口除雪41件、農家地区除雪9件、合計84件となっています。生活支援としては必要なサービスとなっていますが、担い手の確保が今後の課題となっています。

9ページ（2）認知症高齢者の支援です。

「認知症サポーター養成講座」です。令和6年度は、中学校において実施しており、延べ1,624人のサポーター登録数となっています。認知症の正しい知識の普及に向け、より多くの方にサポーターになってもらえるよう実施していきます。

10ページ（3）高齢者の住まいの安定的な確保です。

「福祉用具相談・レンタル事業」です。

介護保険適用外の一時的な福祉用具についての貸し出しをおこなっています。令和6年度は11件となっています。

目標4「高齢者を支える体制づくり」（1）介護サービスの充実です。

「配食サービス事業」です。令和6年度は、配食数5,547食、実利用者32人となっています。

11ページ（2）在宅医療・介護連携の推進です。在宅医療・介護連携事業として、町内の介護・医療・保健の関係者が集まり、多職種での連携をおこなっています。保健福祉医療サービス調整推進会議につきましては、令和6年度12回開催、延べ169人の参加となっています。

（3）地域包括ケアシステムの構築です。

「地域ケア会議」です。全体的な「地域包括ケア推進会」は2回開催、自立支援型地域ケア個別会議は全7回開催しています。

「介護者のつとめ事業」です。令和6年度は2か月に1回開催とし、延べ23人の参加者数となっています。介護者同士での交流をおこなうことで日頃の介護での悩みなどをわかり合えたり、リフレッシュになる機会となっています。

「総合相談窓口」です。来所相談332件、電話相談664件、その他8件となっています。相談は年々増加しており、ご家族からが一番多く、在宅介護に係る相談や認知症について、介護申請や医療機関についての相談が増えています。

以上で各事業の取り組み状況の説明を終わらせていただきます。

委員長

ただいま、事務局より説明がありました。ご質問ありませんか。

山内委員

質問させてください。

1 点目が5 ページの介護予防の推進のところ、例えばこの快足シャキッと倶楽部や6 ページの地域リハビリ活動支援事業は医師としてもフレイルの予防に役立つすごい事業だと思います。それだけではなく、他の参加者との交流の点ですごくいい取り組みだなと思っています。患者さんからは女性で参加しているという方はよくお伺いしますが、男性で参加されてる方は少ないかと思っています。だいたいでよろしいので、男性と女性の割合と、何か男性の参加が少ないことで問題点を感じているのかを教えてくださいなればと思います。

事務局

快足シャキッと倶楽部については、男性の参加は3 名となっており、確かに女性の方が多いかなという印象があります。地域リハビリテーション活動支援事業については、各老人会、各サロンを実施している要請があったところに赴きますが、男性も結構参加している老人会もありますし、老人会は割と男性の参加が多いと思います。カフェサロンはやはり女性が多いと思います。

男性の参加としては、男の料理教室があり、あとは健康マージャンについても、男性の参加が多いです。

社会福祉協議会の生活支援コーディネーターから健康マージャンの様子を報告します。

本日も健康いきいきマージャンが実施されており、男性の参加率が半分ぐらいです。今日は28 名ほどが参加しており、うち半分ぐらいが男性の方です。またボランティアとして講師を務めている方は4 人は男性です。その他にボランティア手帳の方でのボランティア事業についても、男性の割合も少しずつ増えていきいますし、若い男性の方でも少しこのボランティア事業に興味を示していただいていますので、今後も普及に努めます。

山内委員

もう一点質問します。7 ページの緊急通報装置に関係するかもしれませんが、独居のご本人の安心だけでなく、離れて住んでいるご家族の方もすごく安心に繋がっている良いサービスかなと思っています。

先日外来に来た患者さんのご家族が、あいくるに行って安否確認のボタンを申し込んできて、ボタンを押すと、安否確認が家族にLINE で届いて、簡単な音声も録音できるサービスを申し込んできたと聞いて、すごくいいサービスだなと思ったのですがそれは民間のサービスなのでしょうか。

事務局

マゴコロボタンについて実機を用いながら説明

委員長

僕らケアマネージャーで一人暮らしの方へは、インフォーマルと言って地域の人に協

力してもらって安否確認を行います。それは昔からやっていることですが、新聞がとられていないですとか外から見る確認なので、ボタンを押せばそれで家族の方とかにも情報がいくことはすごく便利だと思います。

ただ、今本当に始まったばかりでデータを取っているところだとは思いますが、耳の遠い方でしたり、緊急通報装置とかいろいろと付いていて、またこのボタンが増えたら理解できないっていう人もいたりすると思います。

今後設置希望者がいても対応できるのですか。

事務局

対応できます。

委員長

②「取組と目標」に対する自己評価シートについて事務局説明をお願いします。

事務局

12 ページをご覧ください。自己評価シートは、介護保険事業計画の進捗管理して、自立支援のための施策の実施状況及びその目標の達成状況、計画の実績に関する評価を行い、その結果を公表し北海道に報告することとなっています。

町では3項目設定し、令和6年度の評価を行った結果を記載しています。事業は「地域リハビリテーション活動支援事業」「自立支援型地域ケア会議の開催」を評価対象としており、自己評価としては目標を達成しています。「給付の適正化」においては医療情報との突合・縦覧点検について十分できていなかったため、今年度より給付の担当とともに対応の改善を図っていることを報告します。

委員長

ただいま、事務局より説明がありました。ご質問ありませんか。

なければ、私より一つ。評価の○と△の違いはどのような内容の違いですか。

事務局説明

委員長

ご質問等が無いようであれば、③介護給付費について、事務局より説明をお願いします。

事務局

議案の13P横書きの表、「介護保険計画給付実績比較表」をご覧ください。

こちらは過去3年の給付費状況を記載しております。

令和5年度の実績額と、令和6年度の実績額を比較しますと、例年給付費は増加傾向でありましたが、約8,300万円の急激な、給付費増加となっております。

急激な給付費の増加の要因は、施設サービスが、件数の増加や、認定度重度化から、令和5年度、2億8,200万円に対し、令和6年度は、3億4,7000万円とその差が約6,500万円増加しております。各サービスの給付費につきましては、各自ご覧願います。

次に14pをご覧願います。

第8期・9期の介護給付の状況をグラフ化したものとなっております。

令和6年度、給付費は急激な増加となりましたが、計画値と同等の数値となっております。

15p以降は、居宅介護サービス、地域密着型サービス、施設サービスのそれぞれ、給付費、件数、1件当たりの給付費をグラフ化したものとなっております。各自、ご覧願います。

また、議案に記載はございませんが、今年度の給付費状況は、6カ月分で約4億5,000万円となっております。現在の給付状況のままいきますと、今年度の給付費実績は約9億円近くまでに増加する見込みとなっております。

委員長

給付費の増大の要因は、要介護認定の件数の増加と認定の重度化もありますか？

事務局

あります。

委員長

(3)「第10期介護保険事業計画策定に向けた各調査票について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

それでは、第10期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定にあたり、その基礎資料として今年度を実施する調査について、本日お配りいたしました「令和7年度高齢者実態把握調査（概要）」及び介護予防日常生活圏域ニーズ調査（案）及び在宅介護実態調査（案）を用いて説明いたします。

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、要介護状態になる前の高齢者の生活状況や社会参加の様子を把握し、今後の介護予防施策の基礎資料とするために調査を行うものです。対象者は介護認定を受けていない65歳以上の方となりますので、介護保険制度を利用していない元気な方や要支援1要支援2の要支援認定を受けている方となります。

調査項目は、令和4年度に行った前回の調査項目を基本としています。前回の調査との違いは、（調査票を示しながら）調査票の中で赤書きになっていますが、国からの追加項目として、6ページ 問6 高齢者の就労状況についての質問を今回加えています。また、町として追加した独自項目は、9ページ 問10生活支援についてで、一つ目に生活する上での軽度な支援の必要性を、2つ目に除雪について確認する内容を加えています。

続きまして、在宅介護実態調査です。在宅で介護を受けている高齢者や介護者の生活実態を把握し、在宅生活継続の支援に役立てることを目的としています。対象者は、要介護１～５の認定のある高齢者で回答者は本人およびその方の介護者です。調査項目は、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討するものとなっています。

調査方法は対象者へ郵送としており、１２月中に調査を行います。

以上で説明を終わりますが、この２つの調査内容で宜しいか、委員の皆様にお諮りいたします。

委員長

ただいま、事務局より説明がありました。ご質問ありませんか。

まさしく、生活上の軽度な支援は、生活に直結することですよね。

委員長

高齢者の夏の過ごし方も気になりますね。

細目委員

看護師として訪問活動をしています。今年は暑さで体調を崩される方がとても多かったです。

事務局

涼みどころの取組と実績を報告。熱中症予防対策というのは今後も大きな課題だと思いますので、町としましても、場所の周知や過ごし方の周知を今後も行っていきたいと思います。

4 その他

特になし

事務局

今年度の会議につきましては、これで終了となります。

令和８年度は第１０期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定年度となっており、５回から６回程の会議を予定しています。

本会議の委員任期につきましては、令和８年３月３１日までとなります。委員改選につきましては、事務局より各委員にご依頼やご相談をさしあげます。また、今年度まで、藤井委員、丸山委員に務めていただきました住民代表としての委員枠につきましては、町民に広く関心を持っていただくために、年明け３月広報にて公募の記事を掲載する予定です。藤井委員、丸山委員におきましては、お忙しい中ご協力くださり誠にありがとうございました。

5	閉	会
---	---	---

委員長

以上で、本日の会議次第はすべて終了しました。

これを持ちまして、令和7年度南幌町介護保険事業計画等策定委員会を閉会させていただきます。委員の皆様、大変ご苦勞様でした。

(終了 17 : 10)